久留米工業大学

高みを目指す個性派集団

建築プロジェクト『ASURA』

サークル活動の枠を超えて社会で実践的な経験を積み、自分の力で未来をより良いものに変えるべく挑戦を続ける。互いに切磋琢磨し、個性を磨き高みを目指す。こうした活動コンセプトの下、意識や志が高い学生が集まる久留米工業大学建築・設備工学科のプロジェクト「ASURA」。設立経緯や学生への思いを成田准教授、活動内容と今後の目標などを運営3代表に聞いた。

成田准教授・運営代表に聞く

――ASURAについて

藤本 建築の世界で「計画系」と呼ばれる設計などデザイン分野を中心に活動しています。地方公共団体や企業との共同プロジェクト、公共空間を活用したイベントの企画運営、学生設計コンペへの出展など活動は多岐にわたり、大学の授業で学べないことを社会で実践的に経験します。

サークルや趣味の延長の活動ではなく、学生と建築の力を信じ真剣に社会に対して挑み、さまざまな物事を次の時代に合うようにリデザインし、未来をより良いものへと自らの力で変えるべく挑戦していく。こうした活動コンセプトの下、意識や志の高い個性ある学生が集まり、切磋琢磨する場です。

ASURAのA（アーキテクチャ）は建築、S（スペース）は空間、U（アルティメイト）は限界、R（リデザイン）は再設計、A（アーティスティック）は芸術や美学といった大切な言葉を並べたものとなります。

――加入するきっかけ

藤本 高校2年生の時に夏のオープンキャンパスで、ASURAの活動内容を聞いたのがきっかけです。その内容を魅力的に感じ、説明を聞いていない友人と高校卒業時に差ができる。また、周囲の学生がしていないことをやりたいという思いが強かったことも加入した理由の一つです。

上野 大学進学の際に建築系の大学を希望していて、紹介パンフレットを見ていた際にASURAを見つけました。興味のあるプロジェクトが多く、成田先生の話しが強く印象に残り、自分のやりたい事が実践できる場所だと感じて入りました。

佐々本 大学に入り何をするか迷っていた時に新入生オリエンテーションでASURAのガイダンスがあり、説明を聞いたのがきっかけです。思い描いていた大学のイメージとは真逆で、しっかりとした活動実績もあり、加入することで自分の中の何かを根本的に変えられ、将来の目標も見つけられると思い加入しました。

――運営の立場となり心がけていること

藤本 他の学生を自分と同じモチベーションに持っていけるか最初は不安でした。前任者の行動や言葉使いを思い出しながら、方向性が違っていたらしっかりと主張を聞く。広い視野を持つことで、自然と全体をうまくまとめられるようになりました。ASURAがどうあるべきなのか、今後どのように展開していくか、常に考え続け試行錯誤を繰り返す。この精神を忘れず行動していきます。同じ意志を持ったメンバー、全く違う観点から自分に刺激を与えてくれるメンバーに出会い成長できています。

上野 先輩や同級生の志の高さに影響を受け、何かを見つけたいと思うようになり、パソコンやデザインの勉強をしました。資料作成などを経験し、自分は意外とパソコンが得意だと気付き、今では授業で順位がつく際は常に上位にランクインするほどです。デザインだけではなく、マネジメント業務や施工など多くのことにも挑戦して、引き出しが増えました。

また、コミュニケーションが苦手でしたが下級生と接する機会を増やし、相談相手となれるよう心掛けています。周囲に配慮できるようになった点は成長できた部分だと思います。

佐々本 常に意識していることは上下関係をなくし、誰もが仲良く接することができる環境です。上下関係がピリピリしていると、仕事もやりづらいと思います。楽しい雰囲気づくりやサポートの仕方にも気を配ることで、つながりや接し方など他に負けない能力が身に付きました。意識の高い環境、組織に身を置くことで、引っ張る存在になろうという決意もできました。

――就職先を選ぶ上で重視すること

藤本 第一に自分がやりたい事ができるか。次に会社の経営理念や代表のコメントなどをチェックし、一緒に仕事をしたいか、この人なら付いていきたいと思うかを判断しています。今から伸びていく企業で自分が成長できるかも大事です。

上野 さまざまな事に挑戦したいので、新人の時から経験を積ませてくれる企業がいいです。育児休暇など福利厚生が充実していることも重要。自分の視野を広げて、今から取捨選択できるよう勉強していきます。

佐々本 新しいことに挑戦しているかを重視していて、時代の先取りをしている企業に魅力を感じます。新しいことへの適応は難しいですが、常に高みを目指すASURAにも慣れることができたので、環境適応能力はある。入社してからさまざまな仕事に関わいたいと思っています。

阿修羅喫茶

人が集う空間創造

川の駅を再生し地域活性化

――活動について

藤本 大学内のラウンジで開催されたイベントブースの一つとして阿修羅喫茶をスタート。空間の設営をする中でデザインの試行錯誤を繰り返し、人が集まる空間とは何かを創造しています。昨年は久留米シティプラザ六角堂広場で開催された、同大学初となる学外オープンキャンパス「KIT EXPO2022」に出展。企画デザインから設営までを一から行い、4日間で600人以上の来場者を集めました。将来的な店舗化を目指しています。

また、久留米市田主丸町にある筑後「川の駅」を、地域活性化のコア施設へと生まれ変わらせるプロジェクトもあります。地域資源の活用、ブランディング化を行うため、川の駅の内外構整備や情報発信の在り方を見直す。内装改修イベントでは、タイル張りや漆喰塗りに多くの子ども達が参加するなど人気を博しています。

そのほか、学生ならではの奇抜な発想・アイデアで独創的な夜の空間を創り上げるNIGHTPOOLでは、一昨年度のテーマに「セイレーン」、昨年度は「Retro（レトロ）」とし、八女市のグリーンピア八女を舞台に開催しました。宣伝のためのフライヤー作成、照明設営なども行う。目標は福岡県、日本を代表する空間を創り上げることです。

――ASURAの活動で学んだこと

藤本 ポテンシャルを発揮し、競合しながら自己研磨できる場がASURA。自分から行動をしない限り成長はない。1人では辛いことも支えになってくれる人がいる。衝突することもあるが、その際も考え方を変え全てを肯定的に受け入れることが大事だと気付きました。在籍メンバーは自分が何のために何をやるべきか理解しています。プロジェクトをやる上で好きな役割もあれば苦手な役割もあります。苦手なことを糧にして楽しむことが重要です。

〔川の駅でのタイル張りのようす〕

上野 人前に立ち指示するのは正直苦手でした。加入当初からリーダーを経験したことで自信にもつながり、気付けば副代表になっていました。自ら進んで行動しなければ成長はないと感じています。その中で自分一人ではできないことがあれば、同じ意思を持った多くの仲間と支え合い挑戦する。仲間だけどお互いがライバル意識を持つことで、切磋琢磨しながら成長していけると思います。

佐々本 自問自答を続けることで本当の自分を発見することができる。やりたい事や目標達成のために何をやるべきか、人前で話すのが苦手だった自分が将来はカフェを経営したいとまで思えるようになれました。カフェ経営にはマネジメント力が必要で、リーダー経験を身に付ける重要性にも気付くことができました。

――今後の目標、やりたい事

藤本 限られた時間の中でポテンシャルを発揮し、何を成し遂げるかが肝心で、個人が成長していける土台がASURAにはあります。一人一人が主体を持ち「柱」となり、構築していくような集団に進化していけたらと思います。卒業後は、就職した先でサポート役になるか、独立するのか今のところは決めていません。自らの思いが形となる住宅や商業施設の設計をしてみたいです。

上野 住宅や商業施設の外構など外回り空間のデザインに携わりたいです。また、DIYリノベーションにも興味があるので、兄弟の家をデザインしたいとも思っています。

佐々本 将来はカフェを経営したいと思っています。人前に出ることが苦手でしたが、ASURAで得た知識と経験を生かして人が集まる空間づくりを目指します。内装のデザインや設計も自らやりたいです。

目標と成果を厳しく追求

久留米工業大学
建築・設備工学科
准教授　成田　聖

――立ち上げの経緯

私が2016年の12月1日に大学に赴任し、その翌年に前身組織となる建築プロジェクトを立ち上げます。その時点ではASURA（アシュラ）とは名乗っておらず、学生も現在では100人ほど在籍していますが、当時は少数で1学年30人程度でした。1年生を対象に、説明会を開催したところ15人ぐらいが参加しました。1～2週間ほど活動内容や趣旨などを説明し、5人が残りました。その5人がスタートメンバーです。18年に大学の建築サークル、19年に正式なプロジェクトに昇格しました。

大学教育などへのアンチテーゼ感から、授業で学ぶことができない事をやりたいという思いがプロジェクトの立ち上げ理由です。

――活動を通じて目指すもの

サークル内のプロジェクトは学生主体でやりたい事をベースに実施しています。地域の問題を解決するためや企業とコラボレーションして学生に社会勉強させるものもあります。

サークル名のASURAには、目標と成果を厳しく追い求め、自分自身と常に戦ってほしいという願いを込めています。サークル活動ですが企業のようで、要求水準が高く怠けているとクビになります。建築関係の方に聞くと3割程度は入社後すぐ辞めてしまうそうです。こうではなく「真にやるべき時にはやる」、「業界で長く生き残れる」人材を育てたいと思っています。

――就職先となる企業側へ求めるもの

企業の採用担当者と面談した際に、担当者が「わが社は魅力的でやりがいのある仕事です」といった抽象的な表現をする企業が多いように感じました。具体的にどのような人材が必要なのか、入社後の育成プランなども示してもらうと学生にも伝えやすいです。

また、ワクワク感があって今後成長が見込める会社はとても魅力的に感じます。

――学生に対しては

大学生活には多くの自由になる時間がありますが、この時間をどのように有効活用するかが今後の人生に大きく左右する。頑張っている事が当たり前で、そこからいかに上を目指して高みに至れるか。共に戦う仲間を『戦友』として捉え、自らを成長させてもらいたいです。

職業選択一助へ　企業と交流

やる気のある若手技術者の育成を考える（一社）福岡県建築士事務所協会県南支部と、将来の学生の進路に役立てたい大学の意見が一致し、交流会を開催。支部会員の代表者に、将来についての不安や悩み、業界の現状などを学生が質問。協会代表者がユーモアを交えつつ学生時代のエピソードや仕事のやりがい、楽しさなどを伝える。

学生は大学のうちにやるべきこと、進路決定を決める要因や時期、女性が活躍できる業界であるかなどを質問し、協会側の7人の代表が解答。就職先を決める要因との質問に対し、㈲井上建築事務所の井上文雄氏が「自分がやりたい仕事を探すことが第一で、どの分野に携わりたいかをまず考えること。その次に給料や残業の有無などを検討材料にすると良い」などとアドバイス。

そのほか、女性が活躍できる業界なのかとの質問には、Dar・Fruto一級建築士事務所の濱﨑宣子氏が「女性でも活躍できる会社かは面接時に探ることもできる。現場では力仕事も経験する可能性もあるが、女性ならではの細かい気配りが大変喜ばれる業界でもある」など、苦労を糧にする大切さを学生に伝えた。

（一社）福岡県建築士事務所協会県南支部の横溝當一支部長は「建築士の仕事についてより具体的に知ることができるので、将来の職業選択に役立ててもらいたい」などと話す。